

進路相談を終え、やる気スイッチは押せましたか・・・

□夏休み、そして二学期にやるべきこと

受験生におくる心構え九カ条～信じる者は救われる～

1 一冊の問題集を徹底的に

今まで使っていた問題集をくり返しやりましょう。「これだけやった」という自信につながります。問題集は、どの教科も薄い方がいいです。最初から順番にやるのではなく、一ページおきや、奇数番号だけやったりして、何回かに分けて一冊を仕上げるようにしましょう。二回目は解けなかったところを重点的にやりましょう。

2 不得意科目は基礎・基本問題をたくさんやろう！

不得意科目は難しい問題をやってもできないと、かえて自信がなくなります。基礎的な問題を多くやる方がいいと思います。1, 2年の復習を主に扱った薄い問題集をマスターしましょう。

3 志望校の試験問題をやってみる

志望校の試験問題の特徴や傾向に慣れることです。過去、三年間分の入試問題をやっておけばいいと思います。その場合、時間配分を考えながら何回もやるのが大切です。藤蔭高校の入試問題はホームページにあります。昭和学園や久留米学園、祐誠高校等の過去問は担任の先生に尋ねてください。久留米高専を含め市販されている高校もありますので、購入をするのもいいと思います。

4 今からでも（暗記）は遅くない

英単語や漢字など、暗記しなければならないものは、今からでも遅くありません。この時期は、いつもより真剣に覚えようとするものです。今まで眠っていた能力が出てくる場合があります。「火事場のばか力」を発揮しましょう。

5 わかるまで人に聴く

わからないところが出てきたら、恥ずかしがらずに、先生や友達に相談しましょう。「未解決は残さない」ことです。この姿勢が大事だと思います。一人で悩まない。いろいろな悩みも、友達同士、共有し合いましょ。先輩達も放課後、職員室前で一緒に勉強をしている姿を見せていました。お互いに聞いたり、問題を教え合ったり、先生をつかまえて尋ねたりしてください。そんな風景が増えるといいと思います。

6 受験する高校はすべて第一志望

入学するまでの学力ではなく、入学してから十分やっていける学力を、今つけておくことが大切です。第一志望、第二志望とランク付けをしてはいけません。「受ける高校、すべてが第一志望」を合言葉に「この高校ではこう頑張る」という気持ちをしっかりと持つことです。

7 受験生の特別扱いを受けるな

「ぼくは厳しい受験に臨んでいる。家の手伝いはできない」など、まさか自分が悲劇に主人公のように、家族に特別扱いを要求している人はいないでしょうか。受験はだれもが通る一つの試練です。その試練に真正面からぶつかっていくチャレンジ精神が必要です。「手伝いはいいから」などの特別扱いは、かえて裏目に出ます。今まで通りの生活が大切です。

8 生活リズムを確立しておこう

夜は早めに寝て、朝は早めに起きる、その生活リズムを整えましょう。夜型の人は必ず朝方にもどしましょう。生活リズムを確立しておけば、試験当日の体調も良いはず。夏休みは、きちんとけじめをつけて生活をしてください。

9 とにかくマイペース

夏休みはもちろん、二学期は中間考査や到達度テストまでの自分の計画を立てましょう。そして自分の計画にしたがって、自己点検しながら進んでください。着実にやることが一番です。